

相手、目的、意図に応じて、考えを分かりやすく伝えよう

令和2年度全国学力・学習状況調査では、第1学年「A 話すこと・聞くこと」(1)イの「全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと」の指導事項にかかる、「中学生に対して卒業生である高校生がスピーチを行う場面で、話の言葉に注意しながらお礼の言葉を述べる」設問が出題されています。

「話すこと・聞くこと」の学習では、小学校での学習を踏まえた上で、何のために話したり聞いたり話し合ったりするのかという意識を常にもち、場面や状況を考えて話し方聞き方に身に付ける必要があります。また、話し手と聞き手との関わりの中で成立する学習であるため、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の各指導事項は相互に密接な関連があります。

ここでは「話し合うこと」の指導事項について、話し合いを効果的に進めることや考えを形成することについて取り上げます。

※ワークシートの設問は、単元など内容や時間のまとまりの中で、身に付けた資質・能力を確かめることに活用できます。

ポイント

ワークシート活用場面例

第1学年(11月)

「話題や方向を捉えて話し合おう」
(光村図書 P174~)

第1学年では、「話題や展開を捉えながら」「互いの発言を結び付けて」が重点です。



指導事項

「A 話すこと・聞くこと」(1)オ
話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有

話題や展開を捉えながら話し合うためには、目指している到達点を常に意識する必要があります。また、互いの考えを結び付けて建設的に話し合い、考えをまとめることが重要です。

例えば、話し合いの授業では、到達点に向けて話し合っているか、共通点・相違点など話し合いの流れを踏まえて発言できているかなどの観点を設けて、互いに評価し合う学習が考えられます。話題を意識しながら互いの発言を結び付け、建設的に話し合い、考えをまとめる必要性を実感できます。

チャレンジ①では、話し合いの話題や方向を的確に捉えて考えをもつことができるかどうか確かめられます。

ポイント

第2学年(11月)

「話し合って考えを広げよう」
(光村図書 P166~)

第2学年では、「互いの立場や考えを尊重しながら」「結論を導くために」が重点です。



指導事項

「A 話すこと・聞くこと」(1)オ
話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有

互いの立場や発言を尊重しながら話し合うためには、それぞれの立場や意見の背景について理解しながら話したり聞いたりすることが重要です。また、一定の結論に向かって考えをまとめることが重要です。

例えば、話し合いの授業では、モデル動画で話し合い方を学ぶ活動と実践してみる活動を組み合わせた学習が考えられます。効果的な発言や、異なる立場から多角的に比較・検討して自分の考えをまとめ直すことなど、モデル動画の話し合いで学んだことを活かして実践することが大切です。

チャレンジ②では、互いの考えを尊重しながら、共通点や相違点を踏まえて発言できるかどうか確かめられます。

ポイント

第3学年(11月)

「話し合って提案をまとめよう」
(光村図書 P168~)

第3学年では、「進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら」「合意形成に向けて」が重点です。



指導事項

「A 話すこと・聞くこと」(1)オ
話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有

話し合いが目的に沿って進むような手段を講じたり、それぞれの発言の目的や展開に照らして取捨選択したりしながら話し合ったり、立場や考えの違いを認めつつ納得できる結論をめざして建設的な意見を述べながら話し合ったりすることが重要です。

例えば、話し合いの授業では、合意形成するための観点を決めて実践する学習が考えられます。少数意見を尊重する、それぞれの意見を生かして新たな提案をするなど、合意形成に向けて話し合う中で、考えが広がったり深まったりすることが大切です。

ワークシートのすべての設問において、これまでに学習した「話す・聞く・話し合う」力が確かめられます。